

前回第 2 回研究会で示された方向性

1. 上位概念

- ・ 幸福度を重視しつつ、仕事、学校生活など生活の局面を満足度で捕捉。

2. 大枠（フレームワーク）

- ・ 経済社会状況、心身の健康、関係性を 3 本柱として指標化を検討。
- ・ 持続可能性は 3 本柱とは別建てで検討。

3. 指標化に当たっての留意点

- ・ 既存統計に限定せず、最も相応しい指標を想定して検討。
- ・ 指標の選択においては可能な限り、学術研究の成果を活用。
- ・ 子ども、若者、成人、高齢者というライフステージの違いを勘案して指標を選択。
- ・ 国際的な比較可能性を探求。
- ・ 一つの指標への統合化は実施しない